

争い予防の選択肢を、もっと。



認定NPO法人REALs (Reach Alternatives)

162-0802 東京都新宿区改代町26-1 三田村ビル203

- TEL: 03-5579-8395
- FAX: 03-5579-8396
- ウェブサイト: www.reals.org
- Twitter: https://twitter.com/NPO_REALs
- Facebook: <https://www.facebook.com/NPOREALs/>

(2022年度年次報告書 発行人: 瀬谷ルミ子)

顧問	明石 康	元国連事務次長	
理事長	瀬谷 ルミ子	JCCP M(株)	取締役
理事	小川 和久	静岡県立大学	特任教授
	宮下 幸子	ユイット(株)	代表取締役
	永井 恒男	アイディール・リーダーズ(株)	代表取締役
	中土井 僚	オーセンティックワークス(株)	代表取締役
	佐藤 純一	(株)カヤック	グループ戦略担当執行役員
		(株)そろそろ	取締役
監事	柴田 秀孝	(株)エムアールエス	顧問



リアルズ

リーチ・オルタナティブズ

認定NPO法人REALs (Reach Alternatives)

2022年度 年次報告書

争い予防の選択肢を、

もっと。



「女性であることで教育を受ける機会もなく、人前で話すことすらできずにいた。

でも今の私は自分に誇りを持って、同じ志をもつ仲間とともに果たしている役割を、こうやってみんなの前で話すこともできるようになった。

REALsが私を差別することなく、平和の担い手として選び育成してくれたから。」

南スーダン・マンガテン国内避難民キャンプの女性



2022/04/01-2023/03/31

2022年5月、紛争や迫害などにより世界で避難生活を送る人の数が1億人を超えました。※
そして私たちのまわりは、古今東西の紛争や気候変動の深刻化、突如発生する大災害など、
「いかに世界は危険なところか」という情報であふれています。

自分の身の回りを見ても、すれ違う人への警戒心は年々強くなっていく気がする。
SNSで少しお気に入りや離れれば、「理解できない」と感じるメッセージが流れてきます。
私たちはこのまま、山積みの課題と終わらない議論を聞きながら、
分断に切り刻まれ、危険な世界で生きていくしかないのでしょうか？

そんなことはない、REALsは言いたい。

私たちは行動することで、自分の周りから社会を変えることができます。
REALsとともに活動し、争いを防ぐ社会づくりのために行動している人たちが世界各地にいます。
その1年間を、報告します。

※UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）

人を変え、しくみを変え、社会を変える

平和の担い手となる

「人」の育成

「自分たちの手で社会は変えられる」という意識と行動
を広げるため、REALsは活動地で人材の育成を行います。

人がつながり争いを防ぐ

「しくみ」をつくる

一人ひとりが違いを生かしともに問題解決できるよう、
REALsは連携ネットワークや現地団体の設立・育成支援
など、継続的なコミュニティのしくみづくりを支えます。

しくみが次世代や他の地域、
政策・政治に波及し

「社会」がかわる

「人」や「しくみ」がロールモデルやグッドプラクティ
スとなることで、社会全体に効果が波及します。REALs
はコミュニティと行政・政府・警察の協働体制の構築や、
コミュニティや女性による政策立案への参画、現地の人
々や若者による次世代や他地域の育成を後押しします。

理事長メッセージ

私がREALs（旧：日本紛争予防センター）の代表を務めるようになり16年。REALsがアフリカで争い予防をはじめたきっかけになったのは、紛争でがれきと焼け焦げた家々が残されたスラムの若者たちでした。「民族が違うだけで争い合う友人たちを止められなかった。」うなだれつつも、コミュニティのためにがれきの撤去をせさせとしていた若者たちに、希望を感じたのでした。

彼ら・彼女らに争い・テロ予防や共存の能力強化を行い、15年。今では育成した若者たち自らコミュニティの争いやテロの予防・解決を担う団体をいくつも設立しています。その後学位を取り専門家となり、ケニアのテレビ番組で子どもに平和を伝える番組に出演する女性も。若者評議員として選出された人もいます。次世代の子どもたちの平和のためのロールモデルが多く生まれています。

「砂漠に水をまくような仕事をしている」と言われることもある。でも、そこにいるのは砂ではなく、私たちと同じく確実に個々の尊厳と希望をもった人です。そして私たちがともに踏み出す最初の一步が、世代や地域を超えた波及効果を生みます。それをいかににより日本含めた世界に広げていくかを日々考えつつ、皆様にこの1年の活動をお届けします。

REALs理事長 瀬谷ルミ子



2022年度の取り組みと成果 (2022年4月1日～2023年3月3日)



関連するSDGs、REALsは特に、ゴール16と関連する争い予防、5と関連するジェンダーの視点をすべての活動に盛り込んでいます。

2022年度、5つの活動地で15の活動を行い、**45,307人**に支援を届けました。
育成した人は**232人**です。

シリア

22人 心のケア ジェンダー

心のケアとジェンダーに根差した暴力の担い手に育成

639人 心のケア

心のケアを必要としていた状態から、カウンセリングにつながった国内避難民

572人 ジェンダー

国内避難民キャンプで実施したジェンダーに根差した暴力の予防・啓発セッションへの参加者

3,476人 (754世帯) 緊急支援

7か月間に渡り食料を配布



▶ page 7~8

トルコ

のべ**4,744人** 緊急支援 心のケア ジェンダー

法律相談、通訳支援、心のケアなどの個別支援を受けたシリア難民

198人 ジェンダー

ジェンダーに根差した暴力の予防・啓発セッションへの参加者



▶ page 9~10

トルコ・シリア大地震

約**2,631人** (545世帯) 緊急支援

トルコで衛生用品や靴、食料などの緊急物資を受け取った被災者

954人 (178世帯) 緊急支援

シリア北西部でマットレスやブランケット、調理器具などの緊急物資を受け取った被災者



▶ page 11~12

アフガニスタン

82人 緊急支援

命の危険がある人々をアフガニスタンから安全な第三国へ国外退避

約**300人** 緊急支援

迫害の恐れがある人々に隠れ家となるシェルターの提供、生活支援などの保護支援を提供

のべ**18,907人** (3,052世帯) 緊急支援

貧困世帯に食料を配布



▶ page 13~14

南スーダン

のべ**423人** 共存

共存のための共同活動に参加

70人 争い予防

争い予防の担い手に育成

⇒1,307件 争いの予兆・発生に対応

45人 心のケア ジェンダー

心のケア・ジェンダーに根差した暴力予防の担い手に育成

⇒1,938人 カウンセリングを提供

⇒5,806人 予防・啓発活動に参加

トイレ3棟の補修、安全灯3基の設置

⇒3,000人が日夜を問わずトイレを使えるように

緊急支援 争い予防

▶ page 15~16

ケニア

65人 ジェンダー

ジェンダーに根差した暴力予防とリプロダクティブヘルスの支援や連携を担う人材を育成

10回 ジェンダー

グループセラピーセッション実施

300人 ジェンダー

ジェンダーについての啓発イベントに参加

30人 緊急支援

持続的な争い予防のための現地団体の組織能力強化



▶ page 17~18

シリア

シリア北西部で避難生活を送る人の99%が、住んでいた土地を紛争により追われる経験を2回以上しています。^{※1} 2011年から続く内戦のなかで、いつまた避難を余儀なくされるかわからない不安や戦闘への恐怖、大切な人を失った悲しみ、将来への絶望などに、一人ひとりが直面しています。

ウクライナ危機の影響を受けた2022年4月には、シリア国内でも食料価格が1年前と比べて84%上昇しました。^{※2} 社会全体が危機に陥るなかで家庭内暴力や児童婚などのジェンダーに根差した暴力も深刻化しています。そうした状況に、2023年2月に発生した大地震が追い打ちをかけています。

2022年度、REALsは以下の活動を行いました。

※1 越境トルコハブシェルター・NFIクラスター
※2 WFP（国連世界食糧計画）



国内避難民キャンプを訪問し、心のケアのニーズの状況について聞き取り調査を行う様子
キャンプは都市部から離れた山間部に位置することが多く、悪天候を避けつつ複数のキャンプを回ります

心のケア



現地団体研修でのグループワーク

紛争や避難を経験するなかで心に傷を負った国内避難民に住む人々がケアを受けられるように、REALsは現地団体の能力強化を行うことで、現地レベルで心のケアのニーズに気づき、対応し、必要に応じて関連機関と連携できる取り組みを行っています。

2022年度の成果 **639人**

心のケアのニーズが特定され、
カウンセリングを受けた国内避難民

ジェンダーに根差した暴力の予防



現地で啓発のために作成したアニメーション
児童婚により学校に通えなくなる女の子のシーン

REALsは避難生活のなかで起こるジェンダーに根差した暴力の予防・啓発に取り組んでいます。現地団体にジェンダーに根差した暴力や適切な予防・対応方法についての実務的な技術移転をするとともに、複数の国内避難民キャンプで住民自身が予防を実践できるよう啓発セッションを行いました。

2022年度の成果 **572人**

予防・啓発セッションに参加した
国内避難民

食料配布



国内避難民に戸別に食料を届けています

シリアでは食料危機により、人口の半数にあたる1,210万人が食料不足に直面しています。REALsは困窮した家庭の子どもを含めた家族が命を落としたり、児童婚を選んだりすることを防ぐように、国内避難民キャンプでの食料配布を行いました。

(754世帯)

2022年度の成果 **3,476人**

7か月間にわたり食料を配布



心のケア、ジェンダーに根差した暴力予防のしくみの略図

「自分のつらかった経験を受け止め、次世代の少女たちに伝える役割を担う」

私は14歳のときに結婚しました。夫の暴力が始まったのは国内避難民キャンプに移り住んでからです。住む土地を追われ、劣悪な生活環境や失業で増大した夫のストレスが、暴力や罵倒になって私に襲い掛かってきました。

とうとうある日、口論の果てに私は家を出て夫と離婚しました。夫は再婚し、私の子どもたちは夫と相手の女性と暮らすことになりました。私は生きる意味を失ってしまい、自殺を考えるようになりました。そんなときREALsの支援を知りました。

REALsのカウンセリングを通じ、私は辛い記憶との向き合い方を知り、実践することで徐々に前向きになれるようになりました。その後子どもたちも自分の元に呼び寄せることができ、今では将来はもっと人生は良くなるだろうという希望を感じながら子どもたちを育てることができています。

REALsのジェンダーに根差した暴力の予防・啓発セッションにも参加しました。児童婚や低年齢での結婚により身体や心が受ける危険性を知り、自分にも結婚する前に教えてくれる人がいたらよかったのに、と感じました。

だから今では、セッションで学んだジェンダーに根差した暴力や児童婚の危険性や影響、対処法などについて、私から周りの少女たちに伝えていきます。

国内避難民の女性、20代

トルコ

トルコは世界最大となる392万人の難民を受け入れており、そのうち360万人は隣国シリアからの難民です。* 2011年からシリア内戦が続くなかで、シリア難民のトルコでの避難生活も長期化しています。しかし、言葉の壁や法制度に関する手続きの壁、支援情報や知識不足などにより公的支援を受けられずに取り残される人たちがいます。

地域によっては人口の10人に1人がシリア難民を占めるなか、トルコ社会の政治・経済の局面に応じて難民が社会の分断の要因として人々を扇動する道具に使われることもあります。一人ひとりの難民がトルコの人々とともに社会の一員として暮らしていけるようにすることは、トルコ社会全体の平和と安定にとっても重要となっています。

2022年度、REALsは以下の活動を行いました。

* UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）

シリア難民支援



シリア難民への個別法律相談

難民となった人が避難先で生活を再建していくには、滞在資格の取得の難しさや情報の不足、言葉の壁、紛争や避難による心の傷など、たくさんのハードルが存在します。REALsはシリア難民に向けた相談窓口を設けており、必要に応じて法律相談や通訳支援、心のケアなどの個別の支援を提供しています。

相談窓口
(窓口／電話)



必要に応じて

難民として受けられる
支援についてなど
情報提供

法律相談 ...234人

通訳支援 ...178人

心のケア ...222人

生活支援 ...1,715人

2022年度の成果 のべ4,744人
個別支援を提供

ジェンダーに根差した暴力の予防



予防・啓発セッション

2021年末からトルコではジェンダーに根差した暴力の発生が深刻化しています。REALsは予防・啓発セッションで、ジェンダーに根差した暴力の危険性や予防・対応の実践方法を伝えています。2023年度からは現地でも知識やノウハウを広めるトレーナー育成も行っています。

2022年度の成果 198人
予防・啓発セッションに参加



REALsが2022年より活動を拡大したトルコ南東部・メルスィン県のタルス地区。非公式の難民キャンプが多く居住するシリア難民のほとんどが季節性の日雇い労働をしながら厳しい生活を送っています

「最も苦しい時に受けた支援のおかげで今の人生がある」



REALsトルコの相談窓口にて（真ん中）

シリアでは夫と子どもたち、兄弟と一緒に暮らしていました。住んでいた街に激しい爆撃が続いたので、2013年に家族でトルコに逃げてきました。家も仕事も失いましたが、とにかく安全が最優先だったので。厳しい避難生活のなかで2020年に夫が心臓病で亡くなり状況はさらに悪化しました。必死に働きましたが、一人で子どもたちを養う重責で不安でした。

そんなときREALsを知って、食料や生活物資を支援してもらいました。心理カウンセリングも繰り返し受けることができました。今も責任の重さや大変さは感じますが、孤独で最も苦しい時に支援を受けることができたおかげで、今では自分で働いて家族を食わせていけることがうれしいと感じられる毎日を送ることができています。

REALsの心のケアと生活支援を受けたシリア・アレッポ出身の女性

「家族が再び離れ離れになることなく、ともに生きていくための許可証

私はシリアで両親と2人の兄弟と一緒に暮らしていました。父親は自動車関係の仕事に就いており、経済的にも安定した仲の良い家族でした。しかし2013年のある日、近隣の街が戦闘で多くの犠牲者を生んだことで、私たちは急速シリアを離れることになりました。父親はひとり、シリアに残って仕事を続けました。

一家はその5年後の2018年、ようやく父がトルコに来ることで再会できました。16歳になった私と兄弟は、トルコ語を学びながら父親を助けて働きましたが、トルコでの滞在の問題が生じました。パスポートの更新費用を捻出できず、滞在許可証が失効したのです。私たち一家の滞在は違法となり、強制送還の危機にさらされました。

解決策を懸命に探すなか、REALsの法律相談を訪れました。REALsの弁護士から手続きや書類について説明を受け、トルコ語が必要となる申請に同行するサポートも受けました。結果、私たちは無事に難民のための人道的滞在許可を取得し、家族とともに生活を続けられるようになりました。

シリアからトルコに避難し、REALsの法律相談を受けたアブドゥルさん

トルコ・シリア大地震

2023年2月6日現地時間午前4時、トルコとシリアでマグニチュード7.8の地震が起きました。

日本の関東地方にも匹敵する広範に震源域が及び、両国を合わせた犠牲者は5万6千人を超えています。*

REALsは2月7日に被災者への緊急支援を決定し、3地域で支援ニーズに応じた緊急物資の配布を展開しました。

- トルコ・ハタイ県（被災地域）：食料、調理用具など
- トルコ・メルスィン県（6.5万人の被災者が避難）：衛生用品、靴など
- シリア北西部：マットレス、ブランケット、調理用具など

※ OCHA（国連人道問題調整事務所）

トルコでの緊急支援



物資配布に合わせて被災者の状況を確認

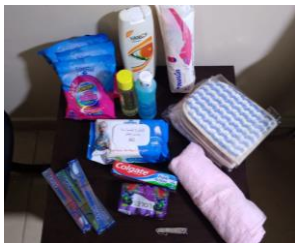


ハタイでの物資配布

約**2,631人**（545世帯）
緊急物資を提供

「日本のみなさんからの思いやりが届きました」

私は激震地のハタイ県でなんとか生き残ることができました。家にひびが入りましたが、完全に崩れなかったおかげです。ただ、両親は崩れた階段の下敷きになって亡くなりました。私たちは助かり、夫とともにメルスィン県に避難しましたが、家族を失ったことで今もショックと深い悲しみのなかにいます。



配布した衛生用品の一例

また、生きていくために必要なものが手に入らないことも追い打ちをかけていました。

そんななか、支援物資を受け取りました。私たちに物資を届けるために尽力してくれたすべての人に心から感謝しています。どうしても必要なものでした。日本の皆さん、思いやりをありがとうございます。

ハタイ県で被災しメルスィン県に避難した女性



2月6日、地震が発生した日の現地（シリア）

シリアでの緊急支援



物資配布



緊急支援として受け取った調理器具を使って料理をする被災者の女性

約**954人**（178世帯）
緊急物資を提供

「最悪の状況でも、人生には良いことがあると知りました」

日本からの支援に感謝を伝えたいです。支援に参加し、シリアの人々と被災者に寄り添ってくれたすべての方に感謝しています。本当に愛のある行動です。日本とシリアは遠く離れているけれど、私たちの間に兄弟を思うような愛があることを皆さんが示してくれました。地震によるひどい状況のなかでも、人生には良いことがあると知りました。あなたや、あなたのように行動する人たちに、神様のご加護がありますように。



シリア北西部で被災し、REALsの緊急支援を受け取ったフレイジさん

緊急物資を受け取った方の声を、動画で公開しています



アフガニスタン

2021年8月のタリバン暫定政権発足から、今も女性活動家やジャーナリスト、司法関係者、旧政府・軍関係者、アーティストといった人たちが脅迫や殺害予告を受け、命の危険にさらされています。退避や保護を求める人がいまだ多くいる一方、各国の受け入れの道は閉ざされつつあります。

また、アフガニスタン国内の社会・経済状況の混乱に、干ばつやウクライナ危機による輸入作物の価格高騰が追い打ちをかけています。2022年には人口の6割にあたる2,400万人が食料不足に直面しました。* 困窮のなか、家計をつなぐためにわずかなお金と引き換えに幼い娘を結婚させる児童婚を選ぶ家庭も増加しています。

2022年度、REALSは以下の活動を行いました。



退避を待つ家族の子ども。中継地点となる国での待機中、学校に通う

* OCHA (国連人道問題調整事務所)

国外退避・保護支援



中継地点で退避受け入れを待つ家族

現在も受け入れを続けるドイツなどの一部の国を除き、各国による退避の受け入れは減り続けています。アフガニスタンからなんとか出国しても、受入国が決まらず、無収入の状態が周辺国で1年以上の待機が続き、査証が失効し強制送還される人々もいます。REALSは、国外退避を必要とする人がアフガニスタンを出国して最終的な受け入れ国が決まるまでの期間も含め、生活・教育などを含めた、国外退避・保護を支援しています。

2021年8月のカブール陥落以降

294人国外退避 約600人保護支援
(2022年度は82人、約300人)

食料配布支援



食料配布を受け取った人

人口の過半数が食料危機に直面するなか、一人での外出が制限されている女性や、仕事や財産を失った国内避難民など、元から弱い立場にあった人たちがさらに厳しい状況に置かれています。REALSは世帯ごとの状況を調査しながら、食料危機下の命と生活を支える支援を届けています。

(3,052世帯)

2022年度の成果 18,907人
1ヶ月分の食料を配布

「家族が幸せそうに食べている姿を久しぶりに見ました」

私には5人の子どものいますが、2021年の政権交代で他の多くの人々と同様に仕事を失い、それからは収入もなく、育ち盛りの子どもたちに十分に食べさせることができませんでした。食事はひとかけらのパンと紅茶を確保するのがやっと。ごくたまに少しのじゃがいもを出せるだけの状況でした。REALSの食料配布で栄養のある食料をいただいて、子どもたちは元気と健康を取り戻しています。子どもたちのために料理を作ることができ、私たち家族はとても幸せです。

食料を受け取ったニロファさん

「日本に入学するまで、安全な場所にたどりつくと信じられなかった」

私は国際機関で働いていたこと、そして出身民族を理由に、タリバン政府のもと逮捕や処刑の危険にさらされていました。

2021年8月に首都カブールが陥落したとき私はちょうど婚約したばかりで、彼女と人生を歩んでいこうと考えた矢先でした。タリバンの侵攻で私の希望はすべて打ち砕かれました。私は2001年以前の旧タリバン政権時代の彼らは何をしていたか知っています。自分や家族がどうなるのでしょうか、怖くて、不安で、どうしようもありませんでした。2回逮捕されかけましたが、ぎりぎりのところで幸運にも逃れることができました。いつ自分の命が終わるのか、時限爆弾が爆発するのに怯えるような毎日でした。

日本への退避が決まったときは、とても嬉しかったです。平和な場所でまた人生を送れるという、未来への希望を持つことができました。それでも実際の渡航までの数カ月間は気持ちの浮き沈みが激しく、日本に入学するまでは自分が安全な場所に退避できるなんて信じられませんでした。カブール陥落で私の生活は一変して、最悪の事態も覚悟していたのです。

私の人生で最高の瞬間は、安全が確保されて、人生の目標に向かって努力できる見通しが立ったときです。REALSの支援により退避したときは、何よりも感謝の気持ちでいっぱいでした。同時に、その時点では妻をアフガニスタンに残さざるをえなかったことがとても心配でした。しかし、REALSの支援により妻もその後2022年9月に退避することができ、いまは日本で一緒に暮らしています。女性がひとりで長い距離を移動することは今のアフガニスタンでは禁止されており、彼女がアフガニスタンから日本に無事に到着することは、REALSの助けなしでは不可能でした。この退避を実現してくれたことに心から感謝しています。

アフガニスタンから日本に退避した男性

アフガニスタンからトルコに退避して、震災ボランティアに参加

父親がかつてアフガニスタンの日本大使館や国連で働いていたために家族全員が脅迫を受け、REALSの支援でトルコに退避した家族。

2月6日の地震を受けて安否確認をしたところ「いま息子は自分たちを受け入れてくれたトルコの人々のために震災支援ボランティアを始めた」と写真を送ってくれました。

アフガニスタンからトルコに退避した家族



南スーダン

「世界一新しい独立国」ですが、独立後の武力闘争や近年繰り返す洪水により、人口の7割にあたる910万人が食料や水・衛生、暴力からの保護など何らかの支援を必要としています。*

散発的な武力闘争が続くなか、紛争や災害により居住地を追われた国内避難民は、財産や生業を失い、心身を負傷している場合もあります。避難先では出身地や言語、民族などの異なる集団が集まる一方、衣食住などの基本的なリソースも不足しており、集団間の暴力的な対立が発生しやすい状況にあります。紛争や避難経験による心の傷や、多大なストレス下で増加する家庭内暴力の問題も深刻です。

2022年度、REALsは以下の活動を行いました。

※ OCHA（国連人道問題調整事務所）

共存に向けた共同作業



協力してコミュニティから集めてきたごみを廃棄する

首都ジュバのマンガテン地区では、水・衛生設備の不足とそれに伴う衛生環境の悪化により、国内避難民キャンプと周辺地域の住民が激しい対立関係にあります。REALsは両者共通の課題である衛生問題に共同で取り組む清掃活動を起点として、共存促進をしています。

2022年度の成果 **のべ423人**
共同清掃作業に参加

争い予防の人材育成



コロナ禍でも争い予防に取り組む若者、長老、女性たち

REALsは首都ジュバの国内避難民キャンプで、争いの予兆や発生にいち早く気づき、適切に対応できる人材を育成しています。たとえば口論、叫び声、不審者の出現などの予兆に対して、警察などと連携するしくみを築きつつ、研修と実践を行っています。

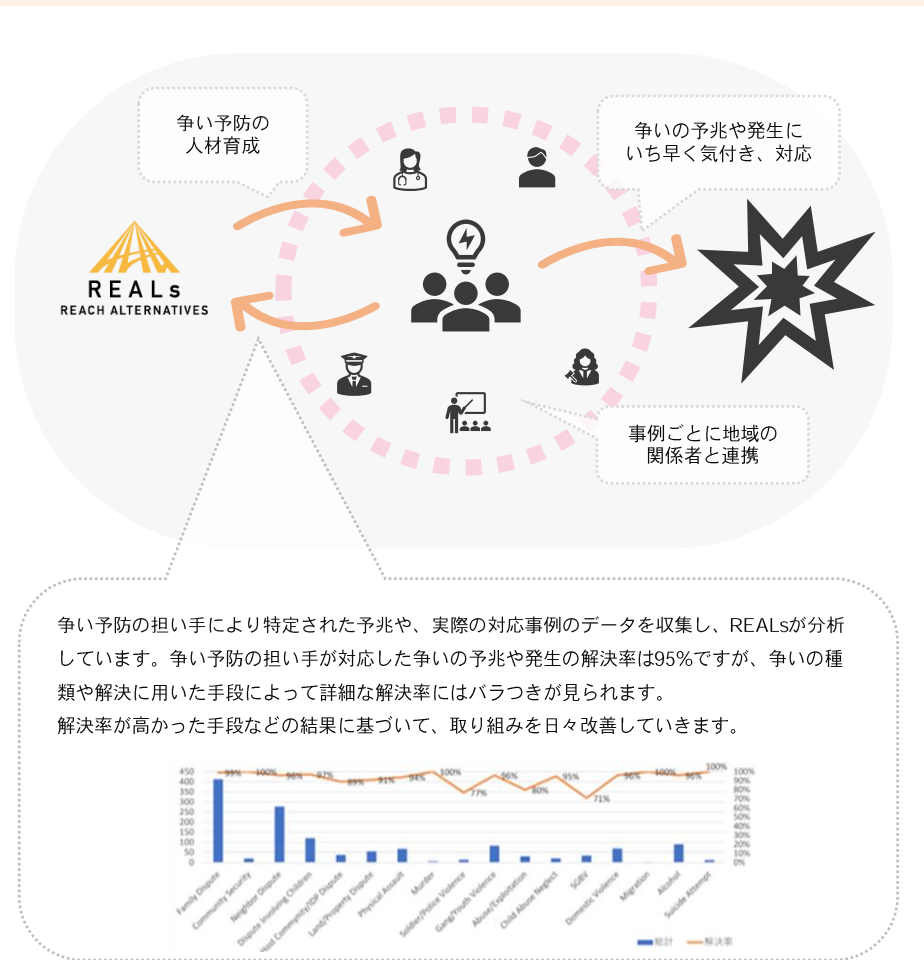
2022年度の成果 **70人**
4つの地区で人材育成
1,307件
育成された人材が争いに対応

早期警戒で異変に気づき、早期対応で問題が起こる前に解決する

モニカはある晩、避難民キャンプの近所の家に見慣れない人々が頻りに集まるようになったことに気づきました。深夜の時間帯はその家から話し声が聞こえるのに、日中は誰もいません。モニカは1週間程度様子を観察したあと、REALsの研修で学んだ問題の予兆が複数当てはまると判断し、同じく争い予防のしくみを担うキャンプの指導者を通じて警察と連携しました。その結果、その家にはドラッグの売買や偽札の印刷を行う集団の新たな拠点となっていたことがわかり、逮捕につながりました。モニカの早期警戒・早期対応のスキルを活用したことにより、子どもたちや若者含むキャンプの住民が犯罪から守られました。



南スーダン・ジュバ市マンガテン国内避難民キャンプにて、争い予防の人材育成に参加した人たち





補修されたトイレ棟の前での集合写真
国内避難民キャンプの管理委員会リーダー、住民、REALs南スーダンのスタッフ

心のケアやジェンダーに根差した暴力予防を担う人材の育成



被害者への対応を実践的に
ロールプレイングで学ぶ

紛争や避難の経験による心の傷やジェンダーに根差した暴力は国内避難民の生活をさらに過酷なものにしています。REALsはそうした課題を現地の人やコミュニティの力で改善していけるよう、人材育成を行っています。

2022年度の成果 **45人**
3つの地区で人材育成
1,938人
カウンセリングを提供
5,806人
予防・啓発活動に参加

上記の活動は、皆さまからのご寄付とジャパン・プラットフォームの助成により実施しています。

水・衛生環境の改善



補修されたトイレ棟のひとつ。
左手前が安全灯

マンガテン国内避難民キャンプには約13,200人が暮らしていますが、トイレや井戸など、基本的な生活を送るために必要な水・衛生設備はほとんどありません。設備の不足は、水資源や衛生環境を巡る対立や、野外で排泄する際に性暴力に遭うリスクなど、さらなる課題を引き起こしています。

2022年度の成果 **トイレ3棟**
(トイレ24基、シャワールーム12基)
安全灯3基
3,000人
昼夜を問わずトイレを使えるように

この活動は、水処理企業である栗田工業株式会社様のご支援により実施しています。

少女の自殺を防ぎ、ともに解決策を探す

REALsの研修を受けコミュニティで活動するメアリーは、避難民キャンプの18歳の少女が落ち込んでいることに気付き声をかけました。少女は、父親が家計が苦しいことを理由に自分には学校をやめさせて、男の兄弟だけ教育することにした、と話しました。少女は父親の決定に傷つき、自殺まで考えていました。

メアリーは少女にカウンセリングを行うとともに、学んだカウンセリング手法を生かし、父親とも押しつけにならないよう配慮し対話を重ねました。かたくなだった父親も、少女含めた対話を通じて徐々に自分の決定を後悔するようになり、性別に関係なく子どもたちを平等に扱うと約束しました。前向きに解決策を話し合うなかで、教育支援を受ける方法について家族は自主的に調べるようになり、結果として少女は奨学金を受け学校を続けられることになりました。

「トイレが暗くて犯罪が起こりやすい場所から、勉強したい子どもたちの集まる場に」

以前は用を足すのも身体を洗うのも大変でした。やむを得ず野外で排泄したり、他の人に見られないように日が暮れてから身体を洗ったりしていました。外で用を足すときは近所の人と一緒に歩いていました。ギャンググループにレイプされる恐れがあるからです。暗いなか移動していて、ライト替わりにした携帯をギャングにひったくられた人もいました。



設置された安全灯

トイレ棟が修理され夜でも周囲を照らす安全灯が設置されてからは、安心してトイレやシャワーを使うことができています。この地域では夜に灯りがある場所は限られているので、避難民キャンプや近隣の子どもや学生が集まってきて、安全灯のもとで勉強するようにもなりました。

マンガテン国内避難民キャンプで暮らす女性（28歳）

ケニア

ケニアは近年は毎年5%前後のGDP成長率を記録し、※ 2022年8月には大統領選挙が実施されました。2007年の大統領選挙のあとに発生した大規模な民族対立と同様の危機が懸念されましたが、現時点まで平和裏に政権移譲が進んでいます。

経済のさらなる発展や社会の安定化が期待される一方で、隣国ソマリアを本拠地とするアル・シャバábなど過激派組織によるテロ行為は依然として深刻です。新型コロナウイルス感染症の流行は医療や行政サービスの停滞を招き、社会のなかで弱い立場に置かれやすい女性や若者に打撃を与えています。

※The World Bank（世界銀行）



ケニア・ナイロビ市キベラの街並み

リプロダクティブヘルスを守り、ジェンダーに根差した暴力を防ぐ



地域医療ボランティアの連携会議で、自身が対応した事例を共有する様子

REALsはナイロビのキベラ地区で、リプロダクティブヘルス(性と生殖に関する健康)やジェンダーに根差した暴力予防に関わる医療やサービスを地域として改善していけるよう、人材育成や啓発資料の開発・提供、現地関連組織の連携の確立に取り組んでいます。

2022年度の成果 **65人**
地域の人材を育成

10回
グループセラピーセッション実施

300人
ジェンダーについての啓発イベントに参加

上記の活動は、皆さまからのご寄付と国連人口基金（UNFPA）の助成により実施しています。

団体として争い予防に取り組む力を育てる



育成対象となる現地団体にヒアリング

REALsがこれまでケニアで争いやテロを予防する平和の担い手として育成した若者たちが、その取り組みを続けられるよう自発的に団体を設立しています。これらの団体が力を発揮していけるよう、REALsは3地区で組織能力強化を開始しました。2022年度は各団体のニーズを調査。2023年度には3団体に所属する若者30人に対して持続的に活動していくための能力強化を行っていきます。

この活動は、セガサミーホールディングス株式会社様のご支援により実施しています。

世界中の方々がエンタテインメントを楽しむことができる平和で安心な社会の実現を目指してサステナビリティ活動に取り組まれている同社より、「コミュニティやそこで暮らす人に寄り添い争いを未然に防ぐ」という活動に共感いただき、争い予防の人材育成にご支援をいただくこととなりました。



地域として能力を高めていけるように、さまざまな連携のしくみをつくりました。一部を以下に紹介します。

公的機関の連携ネットワーク



政府をはじめとする公的機関が救急車の不足や若者への情報共有の方法、性暴力のサバイバーが安心して必要とする支援を話せる場所の設置など、地域が抱える課題やその対応策について協議し対応するしくみをつくりました。

地域医療ボランティア連携グループ



医療サービスの現場では地域のボランティアも活躍していますが、虐待やネグレクト、レイプなどの事例に対応するなかで、ボランティア自身が燃え尽き症候群になるなど、困難に直面することもあります。そのためボランティア同士が経験を共有し連携していくためのグループを結成しました。

現地のボランティアたちは、事業終了後も継続して連携を続けています。ネットワークを活かした取り組みが続いており、2023年5月には地域での啓発イベントも開催され、その様子をREALsに報告してくれました。



REALsは「世界と日本で起きている社会課題には共通点がある」という観点から、日本の人たちに事業地の状況や争い予防の活動について知っていただくことで、現地と日本、双方にとって良い変化を生み出すきっかけとすることを目指しています。

講演・イベント

2022年度も教育機関、企業、政府機関、自治体などを中心に約2,200人の方にREALsの紛争地での活動についてお伝えしました。また、オンラインイベントも11回開催しました。

2023年度もさまざまな場面で皆さまとお話したいと考えています。ぜひご参加ください！

講演・イベントのタイトル例

『いま世界の紛争の最前線で起きていること：REALsの取り組み』
 『争いを防ぎ共存を築く～私たちにできること』
 『STOP! ジェンダーに根差した暴力』
 『女性を、平和の担い手に～紛争最前線からのメッセージ』
 など

メディア掲載（一部）

日付	媒体	メディア	タイトル
2022年04月19日	ラジオ	TBSラジオ『荻上チキ・Session』	「国内で混乱が続くミャンマーとアフガニスタン。忘れてはいけない2つの国の現状」舟越美夏×瀬谷ルミ子
2022年04月26日	新聞	読売新聞（群馬版）レングーツツジ	アフガンで続く危機
2022年05月02日	ラジオ	日本放送『阿部亮のNGO世界一周！』	
2022年06月02日	テレビ	NHKロクいち！福岡	アフガニスタンの家族・手当の支援の現場
2022年06月16日	テレビ	NHK国際報道2022	進まない難民支援 ウクライナ避難民受け入れの陰で
2022年06月29日	雑誌	FRaU 2022年8月号	連載「invisible visible 見える世界を変えにいく。」第1回
2022年07月15日	テレビ	NHK国際報道2022	社会復帰をはばまれる元ゲリラ兵たち コロンビア
2022年07月19日	ウェブ記事	ぼくらの履歴書	「誰もやらないから私がやる」紛争地の武装解除専門家・瀬谷ルミ子の履歴書
2022年09月17日	ウェブ記事	新潮社Foresight	20年間、アメリカはアフガニスタンで何をしていたのか——真摯な調査報道が伝える真実 ※クレイグ・ウィットロック『アフガニスタン・ペーパーズ』書評
2022年10月28日	ウェブ記事	NHK国際報道2022	ノーベル平和賞の“その後” 元ゲリラの暗殺やまず…社会復帰に立ちほだかる壁
2022年11月22日	ウェブ記事	Modern Times	銃を降ろさせるための仕事、相互理解のための共同作業。武装解除のプロに聞く、平和の取り戻し方
2022年11月24日	ウェブ記事	Modern Times	ネットワークでつながる武装集団。遠い国の紛争と無縁でいられない時代に争いを防ぐ方法
2022年12月07日	ウェブ記事	日経WEPコンソーシアム・インタビュー	紛争の和平合意の持続率、女性の参加で35%向上【ジェンダーギャップ会議】瀬谷ルミ子／「紛争地で女性リーダー育成、男性と共に社会を変える」
2023年02月27日	テレビ	NHKクローズアップ現代	「支援の空白地帯」で何が トルコ・シリア大地震

ご依頼はウェブサイトの講演・取材依頼フォームから
<https://reals.org/public.html>



イベントやクラウドファンディングなどへのご参加のお礼

2022年度もREALsの講演やイベント、緊急支援のためのクラウドファンディングなどにご参加いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで2件のクラウドファンディングはどちらも目標を達成することができました。

REALsは2022年度、Instagramを開発。またトルコ・シリア大地震への緊急支援に関する発信では、Twitterスペースでの連続ラジオ配信に新たに取り組みました。計4回の放送で、合計546人の方にご視聴いただいています。2022年10～11月のPEACE WALKでは、1,258人にご参加いただき目標80,000,000歩を大きく超える135,397,711歩を記録することができました。

クラウドファンディング



アフガニスタンから、命を守る場所へ ～国外退避・保護支援

期間：2022年9月8日～2022年11月18日

概要：アフガニスタン国外退避・保護の支援のため、238人の方から4,542,000円のご支援をいただきました。



トルコ・シリア地震の被災者に緊急物資を届けます

期間：2023年2月9日～2023年4月14日

概要：トルコ・シリア大地震 緊急支援のため、929人の方から10,076,000円のご支援をいただきました。

2022年12月8日 アカウンタビリティ・セルフチェックを実施、全項目合格



アカウンタビリティ・セルフチェックは、日本のNGO/CSOが市民や社会から信頼される組織として発展するための取り組みのひとつで、組織と事業の状態を自己診断できるツールです。

市民社会をはじめとする多様な関係者との連携・協働により争い予防と課題解決を行っていくために、REALsは引き続きアカウンタビリティの向上に取り組んでいます。

※NPO法人国際協力センター（JANIC）提供：

https://www.janic.org/active/organizational_strength/

ご支援をいただいた法人の皆様



桜井法律事務所
弁護士 桜井裕子

国際交流
ひらかわの風の会



2022年度中に10万円以上のご支援、または技術協力をいただいた団体の皆さまを掲載しております。(順不同、敬称略)

REALsについて、もっと詳しく

イベントに参加する



REALsは争い予防の活動説明会や、事業報告会など、さまざまなイベントを開催しています。ご興味のあるテーマの際は、ぜひご参加ください。

最新のイベント情報は、REALsウェブサイト「お知らせ」からご覧いただけます。

メールマガジンを読む



毎月ひとつ、世界各地での争い予防の活動についてお伝えしています。

REALsのイベント情報やお知らせもご覧いただけます。

登録をご希望の方は、右上QRコードからお申込みください。

マンスリーサポーターになる



争い予防に取り組む仲間として、REALsはマンスリーサポーターを募集しています。マンスリーサポーターには以下の方法で、活動の成果や進捗をお伝えしています。

- 専用メールマガジン：月1回
- ニュースレター：年2回（夏／冬）



企業・法人として連携する



法人として争い予防に携わってくださるパートナーを募集しています。大切にしている理念や法人としての強み、ご支援の目的に合わせて、連携方法をご相談いたします。

- 理念が共通する活動に寄付をする
- 従業員向けプロボノ制度をつくる
- 社内でクラウドファンディングに挑戦してみる
- マッチング寄付をはじめると など

上記以外にも、さまざまな関わり方があります。REALsの争い予防にご関心のある方は、ぜひお問い合わせフォーム (<https://reals.org/contact>) からご連絡ください。

助成団体・パートナー

国際機関

- ・国連人口基金 (UNFPA)

助成機関・団体

- ・ジャパン・プラットフォーム (JPF)

世界のNGO・NPO

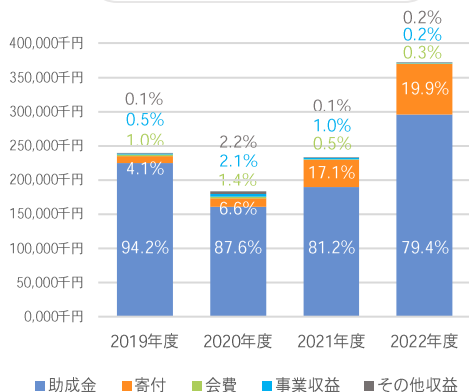
- ・International NGO Safety Organization (INSO)
- ・日本UNHCR・NGO評議会 (J-FUN)
- ・国際協力NGOセンター (JANIC)
- ・NGO安全管理イニシアティブ (JaNISS)

収益の部

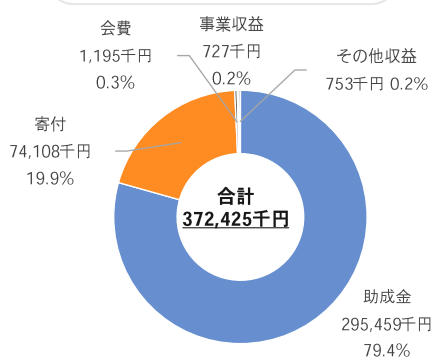
2022年度の収益は、前年度比60%増の372,245千円となりました。内訳については助成金が295,459千円(79.4%)を占めています。アフガニスタンで退避・保護支援に加え新たに開始した食料配布事業が大きく影響し、受取助成金等合計で前年度比56%増となりました。

また、2022年度も多くの方にご寄付のご支援をいただき、受取寄附金は74,108千円(19.9%)でした。継続的なご支援に加え、アフガニスタンやトルコ・シリア大地震の緊急支援には使途指定のご寄付を頂きました。

収益の推移

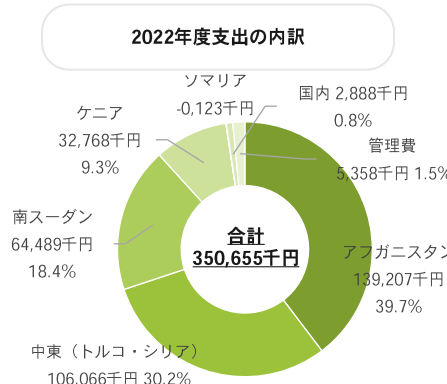


2022年度収益の内訳



支出の部

2022年度の支出は、事業費345,295千円、管理費5,358千円で合計350,655千円となりました。収益同様、アフガニスタン退避・保護支援へのご寄付と、食料配布支援への助成金により、直接事業費の前年度比は57%増となっています。



活動計算書 (2022年4月1日～2023年3月31日)

(千円)

科目		2022年度	2021年度	
経常収益	受取会費	1,195	1,178	
	受取寄附金	受取寄附金	39,050	17,671
		受取寄附金振替額	35,058	22,246
	受取助成金等	295,459	189,381	
	受託事業等	727	2,323	
	その他収益	753	301	
経常収益合計		372,245	233,101	
経常費用	事業費	ケニア事業	32,768	34,358
		ソマリア事業	(123)	6,875
		南スーダン事業	64,489	59,028
		中東(中東・シリア)事業	106,066	90,269
		アフガニスタン事業	139,207	26,203
		国内事業	2,888	3,180
	管理費	5,358	4,755	
経常費用合計		350,655	224,671	
当期経常増減額		21,590	8,429	
経常外収益		0	630	
経常外費用		577	3,676	
法人税等		70	70	
当期一般正味財産増減額		20,943	5,313	
当期指定正味財産増減額		(21,149)	21,149	

貸借対照表 (2023年3月31日現在)

(千円)

科目		金額	科目	金額	
流動資産	現金預金	173,170	流動負債	未払金	7,828
	未収補助金等	450		前受金	101,167
	その他流動資産	3,563		その他流動負債	807
	流動資産 計	177,183		流動負債 計	109,803
固定資産	有形固定資産	1,176	固定負債	退職給付引当金	4,226
	無形固定資産	74		固定負債 計	4,226
	その他資産	1,640	負債合計		114,029
	固定資産 計	2,891	正味財産の部	一般正味財産	66,045
資産合計	180,075	指定正味財産		0	
			正味財産合計	66,045	
			負債及び正味財産合計	180,075	

会計監査の実施について

認定NPO法人REALs (Reach Alternatives)はNPO会計基準に従い、当法人監事および港総合会計事務所による監査を受けています。監査対象となった活動報告書、貸借対照表、財産目録、そして監査報告書はREALsのウェブサイトにてご覧いただけます。